

薄氷の上

中沢中学校3年 松永 遼介

今、平和なのだろうか。私たちが住んでいるこの世界は。

いつ、平和になるのだろうか。私たちが住んでいるこの地球は。

ニュースを見ればいいニュースだけではない。様々なところで争いがあり、大統領への銃撃など、少なくとも世界は今「平和」とはいいきれない状況にあるだろう。

日本は平和だという人もいる。しかし調べてみれば、いつ漁船に当たってもおかしくない距離でのミサイル開発、度重なる領空・領海への侵入など、これも数えきれないほどのものがある。世界の情勢を鑑みても、日本は安全だと言いきれないのかもしれない。

このように考えると、私たちが「平和」だと感じているものは、薄氷の上に乗っているだけに過ぎないのだろう。普段は安定していても、踏む場所を間違えれば簡単にどこまでも落ちてしまえる。だから私は、目に見えない不安や緊張の上で、日常が成り立っていると考える。

では、そのような中で私たちには何ができるのだろうか。

時に私は、知らず知らずのうちに友達を傷つけてしまったことがある。友達とやり取りをしていたとき、私は面倒に感じて返信を後回しにしてしまった。悪気はなかったが、そのまま長い間放っておいてしまった。その後、その友達との連絡は少なくなっていき、以前のようにやり取りをすることはなくなっていった。関係が変わっていくのを感じながらも、当時の私はその理由がわからず、引っかかるような違和感だけがあった。

しかし今思えば、あのときの私は相手の気持ちを考えられていなかった。ただ自分の都合を優先していただけだったのだと今になって思う。自分にとっては何気ない行動でも、相手にとっては「無視された」と感じることもある。そのことに、私は後になって気づいた。

この時の出来事は既読無視以外にも様々な要因があり、そのような兆候はあったが、それでも関係が崩れていくのにたいした時間はかからなかった。

そして戦争もまた小さな要因の積み重ねで起きるのだと私は思う。小さな対立や、自国への利益を優先した行動が少しずつ積み重なり、やがて大きな衝突へとつながっていく。もしそうなのだとすれば、私たちの一つ一つ、日常の中にある行動も無関係ではないはずだ。自分にとっては些細なことでも、相手にとってはとても心に残り、そのまま関係を変えてしまうような意味を持つ重要なものになることも十二分にある。

そして、こうしたものの中にも平和につながる要素があるのではないかと私は考える。

例えば平和とは、ただ争いがない状態を指すのではなく、互いを理解しようとする姿勢の上に成り立つものだ。違いを認め、相手の立場に立って考えようとするのがあってこそ、平和に近づいていく。

だからこそ私は、まず自分の周りのことから行動を変えていきたい。相手の気持ちを考えて言葉を選び、自分と違う考えをすぐに否定せず、対話を大切にする。その一つ一つの積み重ねが、目に見えなくても確実に周りに影響を与えてくれる。

薄い氷の上、不安定なこの時だからこそ手を取り合い支え合わなければならない。互いを見つめ合い、互いを理解し合う。その果てに平和があるのだと、私はそう信じている。